



Rokko Catholic Church Bulletin

# カトリック六甲教会 教会報

2009

4

No. 448



## さようなら、また会う日まで

桜井彦孝神父

信徒が中心になって奉仕する教会、ひとり一人が大切にされる教会、互いに信仰を深め合う教会を目指して、皆様と一緒に歩んできましたが、過ぎてみればアッというまの9年間でした。光陰 矢の如し。此の世の時間は、夢のように過ぎ去ってゆくのですね。思い起こせば西暦 2000 年大聖年の春、東京から故郷の六甲教会に帰ってきたのは、イエズス会入会后 30 年ぶりのことでした。喜びも悲しみも幾年月……。その間に身内では長兄、母、義姉、父、兄の順で見送りました。六甲在住の間には、教会の家族として親しかった方々、友人・知人など多くの方々を天国にお見送りし、イエズス会の兄弟としては、武庫神父・中井神父・メルシュ修道士・フリン神父など敬愛していた方々ともお別れしました。春爛漫、美しい桜花を眺めていると、親しかった故人のご生涯や共に過ごした日々の思い出がありありと胸一杯に拡がってゆきます。「さまさまの 事思ひ出す 桜かな」（芭蕉）。もう少し一緒にいてほしかった、あの時このようにしてあげれば良かったと……。ひとり一人の命がいとおしく感じられます。

如何なる宿命なのでしょう、私たちは此の世に生きている限り、愛する人の死に逢わずにはおれません。この9年間ずーと私の心中を占めていた想いは次のようなことでした。すべての人が旅人のように通り過ぎて行く此の世とは一体何なのか？ 一回の地上の人生とは何か？ 人と人との出会いとは何か……。という想いでした。というよりも、むしろ祈りだったと思います。神様、悟らせて下さい、という祈りだったと思います。しかし、自分自身の言葉で確信をもって表現できるような、納得のいく悟りはありませんでした。此の世のことは不可解かつ神秘のままだが良いのかも知れません。しかし、人間が永遠なる神のふところに救われることについて、私は確信しています。此の世でどういう縁なのか、夫婦、親子、兄弟、また友人、知人として出会い、交わり、愛し合い、助け合ったり慰め合ったり、時にはゆるし合ったりして睦み合い、深い絆で結ばれた者同士が死によって永遠に別れてしまうことなど決してない、そのようなことは決して認められないという確信です。神のもとで必ず再会するという確信です。出棺の際に度々感じたことですが、“愛する者といつまでも一緒に生きていたい”という願いが人間の究極の渴望だと感じました。それを成就されるのは神の愛であり、救い主イエス・キリストの死と復活にあずかることだと信じています。私たちには、「主の復活」という希望に満ちた神の救いと恩寵が与えられているのです。どうか皆様が、六甲の地に「主の教会」があって本当に良かった！という感謝と喜びをもって歩まれますように祈っております。

さて、お別れの時がきました。この9年間に一番よく歌った聖歌をお届けして旅立ちたいと思います。皆様にお会いできて幸せでした。ありがとうございます。またお会いする日まで、さようなら。

神ともにいまして ゆく道を守り あめのみ糧もて 力を与えませ  
また会う日まで また会う日まで 神の守り ながみを離れざれ



【転任先の住所】〒102 0083 東京都千代田区麹町6 5 1 麹町聖イグナチオ教会  
Tel:03 3263 4584 住居は同敷地内のイエズス会岐部修道院です。  
上京の折りには、どうぞ教会に立ち寄って、元気な顔を見せて下さるようお願い致します

## 桜井主任司祭への御礼

2008年度評議会議長 高山

桜井神父様が4月から六甲教会を去られ、東京のイグナチオ教会に行かれることになりました。9年間の長きにわたり、本教会発展のために心血を注いで、ご指導くださったことに信徒の1人として心から厚く御礼申し上げます。

主日のごミサ前後に神父様はいつも笑顔で聖堂入り口にお立ちになり、特に求道者の方、新しく六甲教会の一員となられた方や久しぶりに教会にお見えになった方、ご体調が優れない方などに優しく話しかけておられました。「病者の秘跡」の日には、重いご病気の方やこれから手術を受ける方のみならず、病後の方や身体的、精神的に悩んでおられる方も含め、幅広くお声をかけていただきましたので、秘跡を受けることを躊躇している人々も安心して、実にたくさんの人々が病者の秘跡に与ることができました。

このように神父様の細やかな気配りに多くの方々が感謝していると思います。また、教会の運営面でも経理に明るい神父様が数々の改革を実施していただきました。

「信徒の教会」を目指す我々をいつも励ましていただき、信徒会と専門部会の活動を支援してくださいました。教会行事を減らして、経費を節約することのみならず、もっと信徒が典礼や聖書などの勉強をする時間を設けるよう指導されました。その卓越した先見性のあるご尽力のお陰で、今の経済危機においても、将来の六甲教会に多くの財産を残していただきました。

最後の2年間は神戸地区の地区長として、神戸地区の11小教区をきめ細かくまとめて来られたご努力は、小教区評議委員の方々からも高く賞賛されていることを皆様にお伝えして、私の御礼の言葉とさせていただきます。

## 桜井主任司祭ありがとうございました

2008年度壮年会会長 川合

桜井神父はちょうど9年前の2000年の春に東京から神戸この地の六甲教会に赴任されて来られ

ました。30年ぶりに故郷、神戸に帰ってこられたとお聞きしました。生まれ育った故郷でのお勤めでその想いもひとしおだったこととお察しします。

教会学校の生徒たちに目を細め、「温かい教会」「信徒の教会」づくりを目指すわれわれ信徒会と専門部会の活動を惜しみなく支援していただきました。教会の庭の樹木や花を愛で、囲碁将棋を楽しみ、虎キチ丸出しで阪神タイガースを応援し、さぞお忙しい9年間だったことでしょう。

2006年1月には著書「母の遺言」を発売されました。桜井神父が司祭の道を選んだとき「本物になりなさい」とのお母さんからの一言。桜井神父のお母さまへの思慕・愛情がひしひしと伝わってきます。本当に良い本です。私どもといたって身近で生臭く、人間味があってユーモアたっぷりです。

六甲教会で桜井神父にお会いできたこと、著書「母の遺言」に出合ったことに感謝します。ありがとうございました。

## 桜井神父様

2008年度婦人会会長 森川

桜井神父様、長い間お世話になりました。ありがとうございました。

いつも教会に行きますと、聖堂の入口やイグナチオホールの上に置いてある印刷物に目を通しながらきちんと揃えて下さっているお姿が心に残っています。「とても几帳面な方だな」という印象を受けました。また、お会いした時はいつもさわやかな明るい笑顔で冗談を交えながら私たちを励まして下さいました。教会や婦人会の集まりでも得意の手品で私たちを楽しませて下さり、何かと雰囲気や和らげ、一人一人を元気つけようとして下さっているのを有難くうれしく感じました。2000年に赴任してこられました時に前田のりゑさんと私は婦人会のお役をお引き受けしていましたが、またこの度、神父様の最後の年に前田さんと私が役員をさせて頂きましたことは、本当に不思議なご縁だと思いました。

長い間お世話になりました。本当にありがとうございました。お元気で活躍下さいませ。

## 桜井主任神父の送別にあたり

2008年度三日月会 馬場

長年イエズス会本部で宣教司牧を望まれながら叶わぬ日々を過ごされまして、出身地である六甲に着任されましたので、夢の実現に精気が燃えた事と思います。

しかし、六甲の信徒は旧態然とした司祭偏重の行動パターンで、今でこそ信徒が積極的に参画する事の意義を理解する人々が増えたとしても、当時は多くの人が「神父の仕事を放棄しているのではないか」と思った事でしょう。

六甲在任中に小教区評議会規約の改定を成し遂げられ、今後迫り来る教会の難しい運営に対処する礎を築かれたと思います。

信徒一人一人が広範に亘る奉仕職の一端を担い、進んで使命を果たす自己改造を新しい規約に則り実践する事が肝要な時期に六甲を離れられる事は心残りな事と存じます。

状況が変わりつつあっても、目前に問題が見えないと従来の習慣に甘んじようと成るのが世の常であり、変革には大きな力と仕掛けが必要であり、大勢の人達を導く難しさを体験されて新たな任務に就かれる事を心からお祝い申し上げます。

神に感謝。

# 2008年度第6回小教区評議会 報告

平成21年3月13日(日) 11:15~12:30 (第4会議室)

## 1. 報告事項

### (1) 新役員・新評議員紹介 (高山)

- ・新評議会役員ならびに各会の新役員を紹介。(教会報4月号6ページ参照)

### (2) 「規約改定委員会」最終報告 (鈴木)

- ・3月3日付けで池長大司教の承認が得られた。「規約改定委員会」は解散する。

### (3) 「東ブロックを考える会」の報告 (山本)

- ・2010年は神戸地区大会がない年なので、教会学校リーダーを中心にブロックとしての行事を行う。
- ・社会活動委員会からの要望として、会に出席して東ブロックとしての社会活動も行う。

### (4) 「東ブロック合同堅信式」準備状況 (川合・堤)

- ・5月31日(日) 11:00 神戸中央教会で行われ、池長大司教が司式される。六甲教会からは松村神父、コリンズ神父、片柳神父が参加予定。
- ・典礼部に対しては受堅者の人数確定と当日のミサの待者2名の手配、婦人会は食事の手伝い3名 広報部は写真班として1名手配、費用が発生するので予算措置をお願いしたい。

### (5) 「地区世話人会」報告 (大橋)

- ・詳細については、教会報4月号に掲載する。
- ・信徒会の連絡網を作成する必要性を感じている。

### (6) 「神戸地区宣教司牧評議会」報告 (蛭田)

- ・つながり4月号(4月5日発行)に掲載予定。

### (7) 「特別献金」状況報告 (蛭田)

- ・3月1日(日) 現在の献金総額は約860万円。一括納入266人、分割納入98人計364人で、登録信者数の34%となっている。

### (8) 聖週間の予定 (堤)

- ・4月5日(日) 13:30 リハーサル、4月11日(土)の復活徹夜祭の駐車場整理は壮年会、聖堂内誘導は青年会が受け持つ。

### (9) 桜井・松村両神父の歓送迎会について (船井・川合)

- ・4月12日(日) 11:00 ミサ後、「桜井神父の歓送会」を実施。4月19日(日) 10:00 ミサ後、「初聖体のお祝い」と「松村神父歓送会」を行う。いずれの費用も壮年会、婦人会が負担する。

### (10) 「オルガン準備委員会」について (十河)

- ・当面、神戸中央教会から寄贈された「リードオルガン」で緊急時の対応が可能になった。従って、オルガン準備委員会は解散し、典礼部が引き継ぎ、時間をかけてオルガン導入の検討を行う。

## 2. 協議事項

### (1) 神戸地区大会準備委員会 (蛭田)

- ・6月7日(日) 13:00~16:00 篠山市たんば田園交響ホールで開催される。今年のテーマは「篠山で会おうきずなの恵み」で、一部は松浦司教司式のミサ(北ブロックの堅信式も行う)、二部はイベントとしてバンド演奏、ジャズダンス、阿波踊り、教会対抗クイズなどが行われる。
- ・六甲教会からは2台のバスに分乗し、午前中は篠山近郊の観光も計画している。

### (2) 教会会計本年度実績(2月末現在)と次年度会計概略 (藤原)

- ・詳細については、3月末の決算で確定したものを教会報に掲載する。収支トレンドとして、維持費は横ばい、特別献金はブレが大きい。ただ儀式献金については増えてきている。大阪教区への分担金もあり、将来の教会運営を考えると緊縮財政でいかざるを得ない。

### (3) 評議会予算本年度遂行状況と次年度予算（堀川）

- ・各会の予算については承認された。次年度より、各会とも 20 万円以上の出費の場合は主任司祭及び評議会役員に事前報告することとした。

### (4) マスタープラン検討チーム発足（川合）

- ・下記を参照。

## “マスタープラン検討チーム”が発足します

“マスタープラン検討チーム”が発足します。その経緯について申し上げますと、昨年の 10 月開催の第 3 回小教区評議会で、今次の空調機設備更新第 2 期工事について討議するなかで、「教会を今後どのように運営するのか、大きな設備投資やメンテナンス等を踏まえたマスタープラン作りが必要ではないか」との意見がでました。この様なマスタープランがあって信徒の皆さんが理解し共通の認識となっているものがあれば、当該の設備投資や重点修理維持工事について、その必要性とか突然性とか混乱した議論も防ぐことができます。本年 2 月の拡大評議会で発足させることが決定し、3 月 8 日の第 6 回小教区評議会で協議され承認されました。

内容は下記の通りです。

#### 1. 会の名称

検討対象課題が答えを出して終わりという性格のものでなく、“5～7～10年”の中期計画であり、ローリングプランであることから小教区評議会の諮問委員会ではなく主任司祭直轄の検討会とし、“マスタープラン検討チーム”とした。

#### 2. チームメンバー（任期 2 年）

松村信也主任司祭

チーム長：川合弘一

チームメンバー：藤原、武田、福田、蛭田、久保、高木、橋岡、前田（敬称略）

#### 3. 目的

六甲教会を今後どのように運営するのか、今後の六甲教会の建物、設備などハード面のマスタープラン（5年～7年～10年の中期投資計画）を作成する。信徒会館の建て替えなど教会の骨の部分の設備投資や重点修理維持投資プランを教会財政の状況に合わせ策定する。将来の教会財政（収入支出）動向を睨んだ中期投資プランが必要とされる。

尚、マスタープランの内容および実施については、小教区評議会への報告事項および協議事項である。

キックオフは5月を考えています。初めての試みです。信徒の皆様からのご支援をよろしくお願い申し上げます。

（チーム長 川合）

## 平成21年度 評議会役員・評議員

- ・主 宰：松村 信也 主任司祭
- ・議 長：川合 弘一
- ・副 議 長：詫 洋一、志水 登美子
- ・書 記：柁木 久和、牛尾 啓子



議長：川合 弘一



副議長：詫 洋一



副議長：志水 登美子

- ・評 議 員：★ 信徒会各会会長
  - ・壮年会：柁木 久和
  - ・婦人会：牛尾 啓子
  - ・三日月会：堀川 義政
  - ・青年会：村田 恵美
  - ・地区会：大橋 一朗（留任）
- ★ 専門部会コーディネーター
  - ・宣教部（新設）：藤原 泰
  - ・中高生会：深山 恵子
  - ・教会学校：前田 麻美
  - ・典礼部：橘 道子
  - ・広報部：蛭田 武（留任）
  - ・社会活動部：北上 千恵子
  - ・養成部：宮根 憲二
  - ・行事部：川崎 理砂
  - ・施設管理部：久本 順子
  - ・財務部：松平 麻也

## 各部だより

### 📧 婦人会

4月より新しい年度がはじまります。  
今年度は下記のメンバーで役員を務めさせていただきます。  
皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

会 長 牛尾  
副会長 永田  
会 計 小西  
江本  
書 記 塩飽  
関口

〔行事〕

4月3日(金)10:00 初金ミサ  
十字架の道行  
その後枝の整理があります。ご協力願います。  
14:00 トップ会（第3会議室）

### 📧 三日月会

三日月会 例会  
4月20日(日)14:00 ミサ  
講演 マシア神父  
ビデオ鑑賞

三日月会 喫茶（イグナチオホール）  
4月5日 9時ミサ後～13:00  
※ 皆様のご利用をお願い致します。

### 📧 青年会

4月12日(日) 桜井神父様の送別会  
※「定例会」はお休みにします。  
4月26日(日)12:30 定例会（第5会議室）  
内容：「分かち合い」等を予定

## 《お 知 ら せ》

### 【社会活動部より】

**4 / 1 (水)10:00 手芸の集い(第1・2会議室)**

どなたでも参加ご自由です。

**4 / 11(土)10時 炊き出し(イグナチオホールお台所)**

小野浜グラウンドにて、配食やおじさん達のお話し相手だけでもOKです。

**4 / 26(日)9時ミサ後 手作りコーナー(イグナチオホール)**

お弁当・食料品・手作り作品等の販売

## 行事報告

### 地区会世話人会開催のご報告

去る2月22日に地区会の世話人会が開催されました。

まず、2月14日に開催された拡大評議会での議論の内容がコーディネーターより報告され、その後、意見交換となりました。

拡大評議会では、地区会の主な活動として①各地区会の開催②三日月会のお誕生日カード配布のお手伝い③葬儀受付の婦人会のお手伝い④地区内の病者等情報収集などの4点を報告し、今後の検討課題として、①世話人の任期や役割の明文化②婦人会との地区割の統一化③地区会コーディネーターの体制又は信徒会役員会の定期開催（信徒会相互の情報交換）などを挙げ議論をお願いしました。

拡大評議会では地区会活動への評価や今後への期待の発言をいくつもいただきました。他の信徒会との交流もこれからは活性化する方向の議論がなされました。ただ、規約改正委員会の議論の結果、地区会は信徒会（親睦団体）のひとつであるということになり、今後の地区会の方向性は最終的には地区会自ら考えていくこととなりました。今回の世話人会の議論の中でも、教会からの何らかの指導や指針を求める意見もありましたが、今後は自立した団体として世話人会の中で議論されることとなります。

世話人の方からは誕生日カードの配布について「ご自宅まで持参しても、ポストに入れておいて欲しいとインターホンで言われた」「結局は郵送しなくてはならなくなった」などの経験が披露されました。しかし、ポストにいれるだけでも、お家がわかって貴重な経験だった、あるいは、郵送するにしてもメッセージを書いて送付させていただけた、など一定の成果があったことが語られました。

連絡網については信徒会で作ることを提案がありました。各信徒会との今後の検討課題でありコーディネーターとしても評議会等で議論をお願いしていこうと思いますが、可能な地区はまず出来るところから独自の連絡網を作成していくこととなりました。

地区会が教会の行事を中心に担っている他の教会の経験も披露されました。その上で、自然に将来を待っている駄目で方向付けや役割を地区会で作っていくことが提案されました。

また、各信徒会の情報交換をもっと活発に行うことの重要性を訴える意見もありました。地区会が壮年会や婦人会から仕事をもらっていても良いというもので、その中で大事な組織になっていくのではないかというものでした。

地区会のあり方の議論は、これまで何度も、方向性や信徒会の構成も織り交ぜて続けてこられたのですが、ここに来て三日月会との誕生日カード配布や葬儀受付の婦人会の補助など、他の信徒会との協同作業の中で新たな展望が感じられます。

誕生日カードの配布は灘区と東灘区の世話人の方に限られた活動ですが、誕生日カードを各戸に配布することによって、たとえご本人に会えなくとも、一つ一つの信徒の交流は、地区会の意義にそった重要な活動の基礎だという実感を持つからです。

どの信徒会を中心にするかという理念の議論よりも、他の信徒会との協同作業の積み重ねによって修練されてくるものが、地区会の今後の方向性ではないかと思われます。その根拠は、地区会だけが他の信徒会のすべてを包含する大きな皮袋であるからです。

世話人のある方から、現状の活動で「おんのじ」だという意見がありました。何かをしないといけないと思うとしんどい、「自分からしてあげようとするものを続けていこう、となり近所にどんな信徒の方が住んでいるか知る程度のことからでもよいので、ボチボチやっっていこう、結果は神様にお任せしよう。」という意見がありました。

何も出来ていないので世話人でいることが申し訳ないというお言葉を良くお聞きします。それぞれの事情がありますので、地区会開催だけにあまりこだわらず、世話人でいていただけるだけでとても重要なことです、とお答えしています。「ボチボチやっっていく」ことが地区会の地歩を固めていくことになると信じています。

今回の地区会の開催時間について、11時のミサに預かれるように11時のミサ後に開催するように要望がありました。ご迷惑をお掛けした世話人の方にはこの場をお借りして謝罪し、次回につなげたいと思います。なお、世話人同士の交流をもっと行おうという提案もありましたので、次回の世話人会は世話人同士の交流も兼ね、各自大きな名札を胸につけ、簡単な軽食を共にしながら、開催したいと考えております。

今後の検討課題の議論は引き続き行っていく予定です。 (地区会コーディネーター 大橋)

## 行事報告

### 祈りの道場(3月7日)

今回の黙想会のテーマは「パウロに倣う」。そのため、「ガラテヤの信徒への手紙」「コリントの信徒への手紙一」の箇所を中心に行われた。

ひとつのテーマを約1時間ずつ行い、テーマはそれぞれ「信仰」「自由」「謙遜」「賜物」だった。

その中で、心に響いたのが「自由」というテーマだった。今まで信徒として「～しなくてはいけない、～してはいけない」という判断で行動していたが、信徒として「～する自由がある、～しない自由がある」という判断もあることを知った。説明の後、黙想していると、イメージとして「～しなくてはいけない、～してはいけない」となると強制されながら行動することになるため自分の中に「生き生き感」がわき上がらないように感じ、逆に「～する自由がある、～しない自由がある」となると、自分で選ばなければ行動できないため、心の中に「生き生き感」がわき上がってくるように感じた。

この考えが正しいかどうかは、まだ自分の中でも疑問が残っているが、そのことに気付かされただけでもよい黙想会となった。 (千原)

## 行事報告

### ブルーノさん、六甲教会訪問(3月7日)

#### カトリック六甲教会とカメラータ神戸の親愛なる皆様へ

まず初めに、アントワープ大聖堂の共同体から皆様へ心よりのご挨拶を申し上げます。

また、私共3人の滞在中に皆様の大きな家族の一員として真心こもるおもてなしを頂いたことに対して、クリステル、ピーターと共に心より深く感謝申し上げます。

私は若い頃、ベルギー商船の大きなオイル・タンカーで船長として七つの海を航海しておりましたが、いつの日か大阪港か神戸港に錨を降ろしたいと望んでおりました。その機会に私の伯父であるフーベルト・ペーターズ神父が人生最後の数年を司祭として過ごした神戸を訪れてみたかったからです。残念ながらその望みはその時には実現できませんでした。

伯父が最後の休暇をアントワープの家族のもとで過ごした折り、彼は私達にいつものように六甲教会と神戸のことを愛情こめて語りました。伯父は、御許に召されるその時まで皆様と共にいたい、と私達に打ち明けたのです。残念ながら、その休暇中、交通事故に遭いベルギーで亡くなり、伯父の希望どおりにはなりません。以来、神戸に行きたいという私の「望み」は「願い」に変わりました。そして1995年5月大震災から数か月後に初めてそのチャンスが訪れました。その恐ろしい神戸の壊滅状態を見て、私はオマリー神父様に尋ねました「ベルギー側からどのような支援が出来ますか?」と。するとこのような返事が返ってきました。「私たちはすでに多くを受けています、受けすぎたと言っていいほどです。ただ、私たちは精神的な支えをととても必要としています。」それで私はオマリー神父様に約束しました。



1月の或る主日に、ここ六甲で執り行われたのと時を同じくして、アントワープで司教司式によるごミサが捧げられました。そして私達が祈りのうちに心をつにして神戸の皆様と共にあるということの証しとして、聖母像を神戸に送りたいという申し出を、オマリー神父様は快く受け入れて下さいました。そこからこのアイデアは一つのプロジェクトとなり、私はこれを聖母のご加護に委ねました。何か重要なプロジェクトに取り掛かる時には私はいつも聖母のご加護をお願いしているのです。幸いにもアントワープ大聖堂の最も美しいと思われる聖母像のレプリカが出来上がりました。このプロジェクトの実現により、二つの目標が達成されました。私の個人的な目標と、そして、ひとつの共同体からもうひとつの共同体への支援という目標です。



どうぞこの御像が、伯父フーベルトに示された皆様方の愛と素晴らしいもてなしに対するペータース家の感謝の証しとして、永遠にこの場所にましますように。伯父フーベルトは皆様方に囲まれて、ここで、この上なく幸せな人生を送ることができました。これが、一つめの目標、つまり私の個人的な目標であり、願いでした。

そしてまた、若さと愛と信頼に溢れるこの聖母子像、イエズスを御胸に、慈しみと信仰を現わすこの聖母子像が、アントワープ大聖堂共同体とカトリック六甲教会共同体との強い絆になり、勇気と信仰をもって95年の震災から新しい未来に向かって立ち上がられ、私達の鑑となってくださったことに対する大いなる感謝の証しとなりますように。

おかげで、2005年の6月に私達はアントワープ大聖堂にカメラータ神戸をお迎えし、忘れ難い素晴らしいコンサートと、そして主日にはルックスイン神戸のミサ曲で95年の震災を追悼することができました。

親愛なる皆様、より良い未来に向って、特にこのような経済危機の時代にあって、信仰のうちにひとつになりましょう。そして、私達の聖母マリア様のご加護のもと、祈りのうちに心をひとつにいたしましょう！

2009年3月7日 カトリック六甲教会にて

Bruno Peeters ブルーノ・ペータース

(訳文：木村芳子)

## ブルーノ・ペータース様

六甲教会のベルタワーの中からはいつも優しく私たちを見守って下さっているマリアさまが、震災復興を祈るアントワープの市民の方々の善意の賜物であることはよく知っていましたが、その実現に当たってブルーノ様がどのような思いで私たちのためにお働き下さったのかはよく理解していませんでした。ですから今回初めてお目にかかって信徒とともに直接お話しを聞き、歓迎パーティーのお手伝いが出来て本当にうれしく思いました。

私は2005年に評議会の議長でしたのでカメラータ神戸がアントワープで演奏訪問されるに際し教会の代表としてお礼の手紙を託しましたが、今回のブルーノ様のメッセージにお応えするために、私たちもまた同じ信仰を持つアントワープ大聖堂の共同体とともに祈り、心のつながりを大切にしてゆきたいと思えます。

今回、ヴェガホールに続いてユニオン教会で行われたアントワープ大聖堂オルガニスト、ピーター・ヴァン・ド・ヴェルデさんの素晴らしいパイプオルガンコンサートを成功さてくださったブルーノ様とカメラータ神戸のみなさまに心から感謝いたします。

鈴木

## 「手作りコーナー」からの報告

教会の活動の一つとして毎月第3日曜日にイグナチオホールで手作りの物を販売していますコーナーから感謝申し上げます。毎回、手作り弁当・炊き込みご飯・お寿司・おかず・パン・ケーキ・手芸から植木まで手作りの物、また贈答品等のご寄付を頂いています。一方では信徒の方々にお買い上げのご協力を頂き、いつも暖かいご支援にメンバー一同心より感謝申し上げます。

ささやかですが各会へ支援をさせて頂いていますことをご報告いたします。今後も細々とですが、各会への支援を続けていくことができますよう祈りながら活動していきたいと願っています。共同体の大勢の方たちとの交わりの中で活動できますことを感謝申し上げます。

今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

長い間、陰からのご支援を頂いた桜井神父様に感謝とお礼を申し上げます。さらなるご活躍をお祈り申し上げます。

(手作りコーナー メンバー一同)

## 📖 図書紹介

### 「いま、ここに生きる 生活の中の靈性」ヘンリー・ナーエン著 太田和功訳(あめんどう社)

ヘンリー・ナーエンはプロテスタント、カトリックの別なく現代の靈性の師として広く認められているカトリック司祭。1932年オランダ生まれ。ノートルダム大学、イエール大学、ハーバード大学で教えた後、その職を辞して、カナダのトロントにあるラルシュ共同体で生涯の最後の10年間を知的ハンディをもつ人たちと生活をともにした。1996年に死去。

今から15年余り前に自分が1年間をフランスのラルシュ共同体で生きたことを懐かしく思い出しています。知的ハンディをもった人たちを少しでも手伝えたらといった甘い考えで行きましたが、待っていたものは食事の支度、掃除、洗濯、障がい者の身の回りの世話といった休む間もない日々でした。それと同時に、優しさ、情愛、思いやりなどほんとうに暖かいものを彼らから心いっぱいにもらいましたし、いっしょに生活したいろいろな国のアシスタントとの友情の絆もできて、共同体生活は豊かなものとなりました。

著者ヘンリー・ナーエンは指導司祭の役割をもっていましたので、共同体のなかでの生活はわたしの生活と同じではなかったでしょうが、知的ハンディをもった人たちから受けたものには似通ったところがあったと思います。著者は「はじめに」こう書いています。「わたしはここで、何か独創的なことを書こうとはせず、わたしにとって本当のことだけを書こうと思いました…… ここにあるすべては、現在のわたしの心と思いのままの表現です…… わたしが心から願い、望むことは、読者の皆さんがわたしとは全く異なった魂の旅路をたどってこられたとしても、ここにある思いめぐらしの中に自分の旅路とどこかつながることを多く見出されることです」

著者はこの生涯の旅路で出合わすものを、喜び、苦しみ、回心、訓練、靈的生活、祈り、憐れみ、家族、人間関係にわけてあげています。そして最後に「私たちは何者か」という章で結んでいます。このような旅路をたどってきたわたしたちは《神に愛されている子ども》にほかなりません。このことを著者は本の初めから言いたかったのだと思いますが、結論にもってきて読者の心にもっと深く印象づけようとしたのでしょう。

(小南)



## みんなの広場

### イエズス会士 ロバート・フリン師

ヨハネ 三好 榮之助

フリン師の訃に接した。地上に生まれた者が必ず迎えるその日は、如何ともしがたい。すべてを知り給う神に委ねる他はない。

師の生涯は、神の司祭、修道者、宣教者、そして教育者そのものであったと言える。

こんな書物が出版されている。今となっては入手困難かも知れないが、是非一読を強く奨める。図書室には備えられているだろうか。この書物は多く教外者（未信者）が関わって編纂されたことも、心に留めておきたい。

「ロバート・フリン - あるカトリック神父の足跡 - 」ロバート・フリン出版会（2002年）

この本を読んで今の教会について、或いは家庭とは何か、更に信者の日常について思うことは多いが、それは読者に委ねる。

私事に触れれば、なぜか師はわたしの誕生日（それは霊名の祝日）を覚えておられ、毎年その日には会計室の窓を覗いて一言「おめでとう」と言って通り過ぎられたことを思い起こす。

Requiem aeternam dona ei, Domine.  
Et lux perpetua luceat ei.

次々と高齢司祭の訃が報じられている。しかし跡を継ぐ者は少ない。主は弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」

働き手が少ない今、収穫の主は働き手を呼んでおられる。しかし応える者は少ない。収穫の主の声が聞こえない、聞こえても答えない。答えても従わない。本当に信じて生きていると言えるだろうか。

## 4月の予定

日	曜	教会暦	教会行事
3	金		初金 7:00 10:00 ミサと十字架の道行き
5	日	受難の主日(枝の主日) 世界青年の日	17:00 海星病院ミサ
6	月	受難の月曜日	
7	火	受難の火曜日	
8	水	受難の水曜日	11:00 聖香油ミサ(大阪カテドラル)
9	木	聖木曜日	19:00 主の晩さんミサ(ミサ中に洗足式)
10	金	聖金曜日(大斎・小斎) 聖地のための献金	19:00 主の受難の祭儀
11	土	聖土曜日	19:00 復活徹夜祭ミサ
12	日	復活の主日(祭日)	11時ミサ後 桜井神父送別会 17:00 海星病院ミサ
13	月	復活の月曜日	
14	火	復活の火曜日	
15	水	復活の水曜日	
16	木	復活の木曜日	
17	金	復活の金曜日	
18	土	復活の土曜日	14:30 教会学校 入学式
19	日	復活節第2主日(神のいつくしみの主日)	7:00 10:00 ミサ(初聖体と祝福式) ミサ後お祝い会と松村神父歓迎会 17:00 海星病院集会祭儀
20	月		14:00 三日月会ミサと例会
25	土	聖マルコ福音記者	
26	日	復活節第3主日	10:15 堅信準備の勉強会 13:30 聖体奉仕者黙想会 17:00 海星病院集会祭儀
27	月		11:00 ベビーとママの集い
29	水	聖カタリナ(シエナ)おとめ教会博士	

**編集員のつぶやき**      今回も、教会の中でのさまざまな動きを報告する教会報ができました。皆さまの小教区に対する思いと働きに感謝いたします。そしてそれを皆さまと分かち合える教会報でありたいと願っています。どうぞ活動や日々思うことを広報部までお寄せ下さい。      ふ

教会報5月号の発行は5月3日(日)です。  
編集会議は4月26日(日)です。  
記事原稿は、4月19日(日)正午までに信徒会館受付へご提出願います。      (広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

### カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21  
電 話 078-851-2846  
F A X 078-851-9023  
発行責任者 桜井彦孝 神父  
編 集 広 報 部